

どこよりも早い、ミラノ・サローネ電撃速報!

# ELLEDECO

保存版  
INTERIOR  
SPECIAL

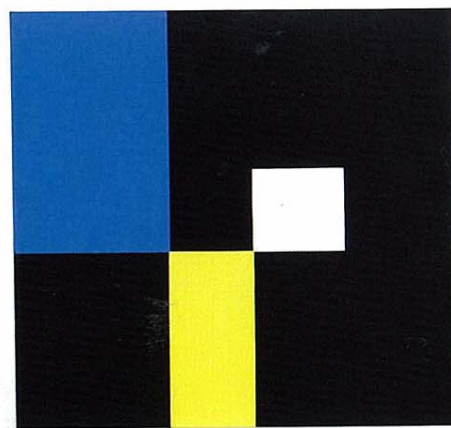
やっぱり見たい!  
海外インテリア実例集。

エル・デコ  
6月号 JUNE 2010  
[www.elle.co.jp/deco](http://www.elle.co.jp/deco)

Bathroom  
最高に癒される、  
バスルーム **30**

Kitchen & Tableware  
キッチンとテーブルで、  
もっと遊ぼう!

独占取材  
ヴィトラ大研究!



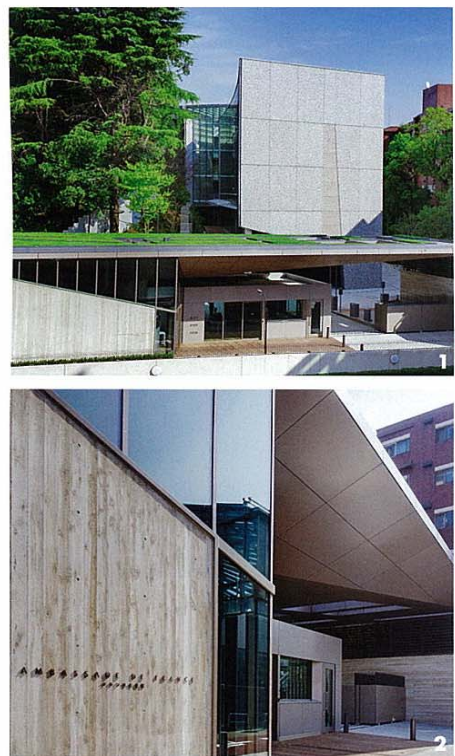
**69**  
Pages

海外実例でセンスを磨く!

## インテリア大図鑑。

オスカー・ニーマイヤー ● ピエロ・リッソーニ ● P・ウルキオラ ● マテオ・トゥン 他  
家具選びから、グリーンの飾り方、空間づくりのコツまで、プロが解説します!





1、2 5階建ての新庁舎は、ADPi（パリ空港公団の子会社）と竹中工務店との共同設計。貴重な庭園を極力守りながら、高性能の断熱システムの使用、建物にはリサイクル建材もしくはリサイクル可能な建材が使われ、水使用量20%が雨水利用でまかなわれるなど、きわめて環境に優しい建築を目指し建設された。

※新しい大使館の建設のために採用された計画は、民間部門との革新的なパートナーシップ方式。フランスは土地の一部を定期借地として53年間の期限で貸し、今回の建設チーム、MINTAKはその土地に高級マンションを建設し、分譲する。その代償として、大使館の新庁舎を設計、建築、整備するほか、15年間のアフターメンテナンスを引き受ける。改装改修工事も含めて、フランスに一切公費は発生しない仕組みだ。



フランス人の建築家、ピエール・ミシェル・デルベッシュとドミニク・シャヴァンヌが手がけた建物は、突出した屋根のデザインが印象的なゲートから入ると、ゆるやかな木立のなかのスロープの向こうに、ガラスのファサードが伸びている。庭園を眺めながらのエントランスまでのアプローチは、敷地環境が十分に活用され、ロビーのゆったりとした空間は、来訪者を心地よく迎えていた。

最初に目につくジャン＝マリー・マソンの黄色いソファとモニック・フリードマンの光あふれる3部作の作品が、高く吹き抜けになった広いエントランス空間に、個性的なアクセントとして添えられている。ビザ発行申請者のための待ち合いのスペースにも、今年エル・デコのインターナショナルデザインアワードの大賞を受賞したブルレック兄弟の「VEGETAL」が置かれていて、お役所にあがりながら殺風景な待合室とはまったく異なるアート空間だ。そうした今回の思い切ったリニューアルについて、総指揮者ともいえるフィリップ・フォール大使と、磨き抜かれたバリの感覚を、インテリア面でアドバイスしたクリスチヌ・フォール大使夫人に、話をきいてみた。

**ELLE DECO**（以下E） 大使館が新築のビルに移って、居心地はいかがですか。  
**大使** ここに入って4カ月になります。開放的なガラス張りの採光面が、誰もがとても満足していると思います。開かれたガラス張りの採光面が、

有栖川公園の裏手、元徳川伯爵邸のあった広大な敷地に、瀟洒なフレンチモダニズムのフランス大使館の建物ができたのは、1957年だった。それから半世紀経った2009年。その建物は、大々的な建て替えの年を迎え、豊かな緑の敷地は再構成され、光と新素材と空間が見事なバランスをみせる、新たな大使館が誕生した。

解体作業前には、旧庁舎で70人近い日仏のアーティストが参加しての「ノーマンズランド」展が行われ、話題に

## 新・フランス大使館の家具をチェック！ フランス大使夫妻が選んだ、 もっとも美しいデザインは？

昨年10月に生まれ変わった、南麻布にある新・フランス大使館。駐日大使夫妻が中心となって選んだという家具たちを、一挙に公開しよう。今回は特別にJ・バーキンの娘、ケイト・バリーによるポートレート撮影が実現！

Photos KATE BARRY (P.122,125) , KAWASUMI Architectural Photograph Office  
Coordination & Text KASUMIKO MURAKAMI





## Philippe Faure

フィリップ・フォル

駐日フランス大使。1950年、トゥールーズ生まれ。哲学学士号および英語修士号を取得後、パリ政治学院、国立行政学院を卒業。外交官として外務事務官を15年間務める。その後10年間、保険、コンサルティング、出版などの民間企業を数社経営。メキシコ、モロッコに特命全権大使として赴任。2008年2月以降、駐日フランス特命全権大使を務める。マダム・フォールは、デザインや家具についての知識も豊富で、今回の新大使館の家具選びは夫人が中心となって行われた。

心地も格別です。

**夫人** その脇にある会議室にはニコラ・ピュフの壁画がありますが、一見18世紀のクラシック絵画にみえてもディテールには漫画のようなものが描かれ、日本のカルチャーにも繋がります。

**E** 大使としてデザインに対する思いをきかせていただけますか。

**大使** デザインの定義はいろいろありますが、私にとってデザインというのは、物体の機能性とフォルムとのハーモニーだと思います。いかなれば美と便宜性といったものの関わり合いです。私は以前から美術品の愛好家です。美しいものが好きです。ですからデザインも重要視しています。今回大使館の中に、このようなフランスのクリエーターたちのための場所を与えられて、嬉しく思っています。

**E** 大使館が生まれ変わったことで、今後日仏の交流などで発信していきたいことや、ヴィジョンを教えてください。

**大使** 日仏の関係というのは、これまでの歴史のもとに、豊かなものが築き上げられています。一昨年は日仏外交関係150周年を迎えました。交流といっても文化面だけでなく、経済、政策、科学、あらゆる面で一段と関係を深めていきたいと願っています。

各階にあるので、明るく、まるで木立の頂にいます。光に溢れていてモダンです。快適です。自然環境がとても大切にされているので、「エコ・アンバサード（エコロジカル大使館）」といってもいいでしょう。

**大使夫人** 光については、私も特に気をつけていました。

**E** エントランス、待合室、会議室、大使の執務室とその控えの間などを見せていただきましたが、おのおのの説明をしていただけますか。

**大使** この建物の建築家との交渉や館内の内装、家具などはすべて妻の選択です。スーパーバイザーでした。

**夫人** オフィスのインテリアは、機能的で、それでいてそのスタイルも大切で、いろいろな気をつかいました。まず、大使執務室には、20世紀のデザイン界を代表するような人たちの家具が置かれています。シャルロット・ベリアン、ティエール、イームズの椅子、執務デスクはホルトローナ・フラウのもの。そしてVIPの打ち合わせ室には、フィリップ・スタルクやフィリップ・ユレルのものが置かれています。壁にはピエール・スラーヂュの作品が掛かっていますが、スラーヂュは最近パリのボンビッドゥー・センターで回顧展が開かれたばかりですね。それから、各階にはエルメスのスポンサーによるアート作品も展示されています。

**大使が特にお好みなのは、日本画家の今井俊満氏の作品。**

**大使** エントランスについていえば、「アサント」というモニク・フリードマンの壁画が飾つてあるし、ロビーに置かれたジャン・マリ・マソーのソファは、デザインだけでなく、座り



1階の会議室には、東京在住のアーティスト、ニコラ・ピュフの作品が壁一面に。ルネッサンス装飾とポップカルチャーの双方にインスパイアされたというこの絵は、右側が日本、左側がフランスを象徴している。こちらもエルメス財団の協力を経て製作されたもの。

上は大使執務室。1 執務室を出た廊下には、フィリップ・スタルクの「PASSION」が配されている。その上に並ぶアートは、ピエール・スラーヂュの作品。2 スタルクの椅子が並んでいる壁の後ろに位置するVIPの待合スペースは、フィリップ・ユレルのソファ「CHAIRMAN」とデスク「SARDANE」が選択されている。フロアスタンドは、アドリアン・ガルデルがデザインした、アルテミデ社の「MELAMPO」。





© PIERRE-OLIVIER

© PIERRE-OLIVIER



4 みかんぐみによるオリジナル家具が配された、大使公邸の1階のスペース。和洋が交わったユニークなこの空間からは、日本庭園が眺められる。5 ビザ発給手続きの待合室。ブルレック兄弟の「VEGETAL」が可愛く整列する。6 エントランスの正面突き当たりでは、ジャン=マリー・マソーのソファ「ASPEN」とその上のモニク・フリードマンの絵が優雅に出迎えてくれる。

1 エントランスをくぐり上を見上げると、ガラス張りの天井を望む開放感のある吹き抜けに。2 大使執務室の椅子、イームズの椅子「GROUP CHAIRS」の背後から。3 踊り場には、各階ごとに異なる色でコーディネートされたクリストフ・ピエの椅子「Y'S DE LUXE」と、エルメス財団スポンサーによるジャン=ミッシェル・アルベロラのアートが飾られている。





From New French Embassy



## CHAIRMAN

フィリップ・ユーレル

VIP専用のウェディングスペースに置かれたソファ。クラシック家具の優美なフォルムを現代的にアレンジしている、ユーレル特有のコレクション。アームから背にかけての美しさは特筆もの。(W68 X D79×H72.5×SH40cm)19万9,500円〜/カッシーナ・イクスシー青山本店 ☎03-5474-9001



## MELAMPO

アドリアン・ガルデール

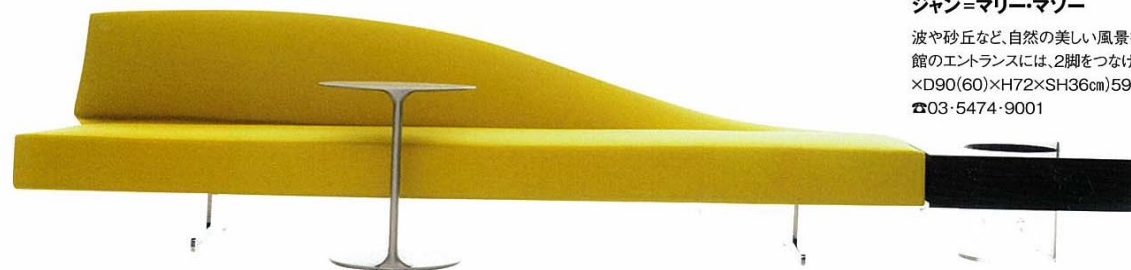
点灯時はもちろん消灯しても美しい表情を見せてくれるフロアランプ。洗練されたアルミ塗装仕上げの佇まいは、大使館だけでなく大使公邸でも静かに存在感を放っている。(φ35 ×H163cm)11万5,500円/ヤマギワリナ本館 ☎03-3253-5111



## VEGETAL

ロナン&エルワン・ブルレック

今年、エル・デコデザイン賞の大賞を受賞したブルレック兄弟。「デザイナーとしての仕事は、新しい構造に沿った新たな形を見つけたこと」。そんな彼らの椅子は、ビザ発給の待合室に並ぶ。(W60.6×D57.7×H78.3×SH43cm)3万9,900円/hhstyle.com 青山店 ☎03-5772-1112



## ASPEN

ジャン＝マリー・マソー

波や砂丘など、自然の美しい風景を想起させるエレガントなデザインのソファ。大使館のエントランスには、2脚をつなげて、なだらかな山のように配置している。(W260×D90(60)×H72×SH36cm)59万8,500円〜/カッシーナ・イクスシー青山本店 ☎03-5474-9001



## EAMES SOFT PAD GROUP CHAIRS

チャールズ&レイ・イームズ

大使が執務室で座っているのが、このイームズの椅子。ハーマンミラーとイームズ夫妻の30年間に及ぶ関係から生まれたパーマネントデザインの代表作だ。(W58.5×D61.5×H96.5〜104×SH46〜53.5cm)44万5,200円/hhstyle.com 青山店 ☎03-5772-1112



## 3300 FLUTE

フランコ・ラッジ

大使のデスク脇に立つスタンド型照明。ポールからシェードに至るまですべてガラスで作られているため、圧迫感がなく存在感のある美しい照明。(φ27×H192cm)20万7,900円/カッシーナ・イクスシー青山本店 ☎03-5474-9001



## Y'S DE LUXE

クリストフ・ピエ

フランス大使館の2〜4階の踊り場にあるのが、色とりどりのこのリラクゼーションチェア。体をたっぷり預けることができ座り心地抜群。ファブリックはKvadrat社のもの。(W54.5×D73×H80×SH43cm)44万1,000円(参考価格)/ケイアンドカンパニー ☎03-5638-5630



## PASSION

フィリップ・スタルク

一目で「スタルクのデザイン」とわかる肉感的なボディに、すっきりとした脚を持つチェア「パシオン」。こちらは執務室の外の廊下に配置されている。(W58.5×D59×H78×SH45cm)19万9,500円/カッシーナ・イクスシー青山本店 ☎03-5474-9001



## VOLAGE

フィリップ・スタルク

VIPゲストを迎えるのがこのシリーズ。クラシックな趣とシャープなライン、職人の技が十二分に発揮されたソファは、執務室で大事なお客様を迎えるのに最適。(W244×D95×H86×SH42cm)96万6,000円(5月末発売予定)/カッシーナ・イクスシー青山本店 ☎03-5474-9001



## SARDANE

フィリップ・ユーレル

骨太でマッシブなデザインながらも、天板の下部にある空間がシャープな印象を与えるテーブル。待合室に、同じくユーレルのソファ(右上)と組み合わせられエレガントな雰囲気を出す。(W60×D60×H45cm)17万6,400円/カッシーナ・イクスシー青山本店 ☎03-5474-9001



## LC2

ル・コルビュジェ、  
ピエール・ジャンヌレ、  
シャルロット・ペリアン

ル・コルビュジェの代表作「LC2」は、世界でもっとも有名なソファかもしれない。最小の構成で最大の快適性を実現することを目的にデザインされているのがこのソファ。(W76×D70×H66×SH47.5cm)36万7,500円〜/カッシーナ・イクスシー青山本店 ☎03-5474-9001



## ADJUSTABLE TABLE

E1027

アイリーン・グレイ

長年アイリーン・グレイが追い求めていた完璧な機能美が反映されている。執務室にあるこのテーブルは、高さを自由に調節でき、オケージョナブル・テーブルにも最適。(φ51×H62〜101cm)12万2,850円/hhstyle.com 青山店 ☎03-5772-1112



## LC10-P

ル・コルビュジェ、  
ピエール・ジャンヌレ、  
シャルロット・ペリアン

執務室のセンターテーブルとして選ばれた「LC10-P」。15mm厚の天板ガラスとクロームの脚、スチールフレームで構成された、重厚感のあるガラステーブル。(W120×D80×H33cm)26万2,500円/カッシーナ・イクスシー青山本店 ☎03-5474-9001